



高井戸東小学校

8・9月号
No. 619

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

ワクワクをたいせつに

校長 馬場 章弘

学校に子供たちの元気な声が戻ってきました。

子供たちにとって、また各ご家庭にとってどのような夏だったでしょうか。

小さな視点、私個人としてはこの夏はプロペラ機に乗り神津島に行ってきました。調布飛行場から離着陸含めて45分ぐらいであつという間についた島は、きれいな海と夜は肉眼で天の川がはっきり見えるほどの自然豊かな場所でした。神津島は日本に4つある「星空保護区」のうちの一つで、街の灯が空に漏れないように島全体で対策しているところだそうです。山に登ったり、海で泳いだり温泉に入ったり、2泊3日で楽しみつくしました。



一方大きな視点で考えるならば、なんとといってもパリオリンピックが大きな話題でした。海外で行われた大会としては過去最多の45個のメダルを獲得しました。「～年ぶりのメダル」とか「初めてで～」とかの話題がたくさん報道されました。もちろん、メダルを獲得しないまでも国の代表としてオリンピックに参加することだけで、尊敬に値することです。才能ばかりでなく、本人の努力、積み重ねがあつてこそです。

そのような中で、オリンピックでこれから競技に臨む選手たちの談話に、「ワクワクしています」という言葉がいくつかありました。その「ワクワク」が私には強く印象に残りました。私が子供のころは選手たちの表情や言葉は、国を背負ったどちらかという悲壮感すら漂うものでした。でも、今回競技を前にして選

手たちの心は「精一杯」から「楽しむ」そして「ワクワクする」ものに変化してきたようです。これは時代の変化というより、悲壮感で委縮するより「ワクワクする」気持ちで自分のもてる力を十二分に発揮するメンタルコントロールの在り方が重要視されるようになったからだと思います。それは、メダルを獲得するしないにかかわらず、競技者個人の人格を大切にするという考え方でもあります。応援している人たちからいろいろ励ましの言葉ばかりでなく、心無い言葉もあったことでしょう。でもそれを乗り越えて「ワクワクしている」「楽しみたい」と語る言葉は、選手たちが自分で自分を励ます言葉でもあったことと思います。「こうあってほしい」「メダルを取って当たり前」という応援している人々の期待よりもまず優先されるのが、競技者の人格ということです。そのような意味では、SNSでの心無い誹謗中傷はオリンピックとはかけ離れた、誰かを攻撃したいからたまたま競技者を標的にしたと思えるような行動にみえました。

パラリンピックも始まったので、同じように注目していきたいと思っています。

さて、本校でも二学期は学習とともに運動会や学習発表会など様々な行事が充実する時期です。その一つの練習から当日本番まで、子供たちが「ワクワク」して参加できるよう、子供たちとともに教職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。ご家庭でも子供たちが「ワクワク」するような励ましとご協力を、よろしく願いいたします。

5組より

5組担任 古林基子

4月より高井戸東小学校の一員となりました「5組」です。1階の体育館側(旧家庭科室)が教室です。自分のペースでゆっくりと学ぶ児童のクラス(特別支援学級)です。杉並区には、小学校40校中の11校に、中学校23校中の6校に特別支援学級が設置されています。特別支援学級の学区は広いので、少し遠くから通学している児童もいます。

今年度は1～6年生の10名の児童でスタートしました。8人で1クラスという編成なので、2クラス編成で担任が3人と介助員1名のスタッフで運営しています。児童の得意なこと苦手なことに寄り添いながら学習や活動を進めています。

特別支援学級・特別支援学校(済美養護学校)との連合行事もあります。6月には3年生以上が、桃三小・四宮小・新泉和泉小と一緒に移動教室(山中湖周辺)に行ってきました。2学期には、近隣の支援学級との連合スポーツ交流会があります。1月には、セシオン杉並で連合展示会も開催されます。

10月の高井戸東小の運動会では、それぞれの学年に入り、一緒に競技や演技をします。ぜひ、応援よろしく願いいたします。